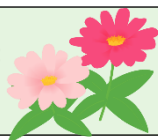


看護実践・キャリア支援センター通信



2023年
9月

奈良県立医科大学附属病院 石飛悦子看護部長
センター長就任のご挨拶



Vol.26



我が国の医療提供体制について、国内の

65歳以上高齢者人口がピークを迎える2040年を展望し、改革が進められてきています。そのようななかで医療に従事する人の育成も重要な課題であるといえます。

看護実践・キャリア支援センターでは、看護学生や看護職のキャリア支援・継続教育を院内の豊富な人材により提供することで、より質の高い看護を実践できるように支援をしています。看護職の学

習ニーズに対応しながら、高度医療を支えるための知識・技術のみならず、看護職としての人間力を高めるための学習も提供していきます。医学部看護学科と附属病院看護部が連携・協働し、看護実践能力を高め、本学のみならず奈良県の地域医療を担う看護職の育成に取り組んでまいります。

微力ではございますが、センター長として尽力してまいりますので、皆さまのご理解とご協力宜しくお願い致します



看護基礎教育 看護学生へのキャリア支援プログラム

看護実践キャリア支援センターでは、看護学科の学生を対象に看護の専門職としての様々な生き方を考えるプログラムを行っています。

今年度は4月3日に4年生対象に就職に対する心構えとして奈良県看護協会の飯尾美和会長から奈良の医療(奈良方式)やナースセンターにこころの健康室があること等奈良県で看護師として働く魅力を、看護学科の奥田淳准教授から「社会人としての基礎」をお話いただきました。4月6日には新入生対象の入学時オリエン



4年生対象講師
奈良県看護協会
飯尾美和会長

テーションで石飛悦子看護部長に看護の現場で働く者の思いについて、7月4日には基礎看護学実習前の2年生対象に、石飛看護部長から看護職のキャリア形成についてお話いただきました。また奈良県立医大附属病院に勤務する医大OGの矢木悠花さん、加藤敦子さんから実習前の心構えを学生時代の心境や現在のキャリアにつながる点なども含めお話いただきました。学生の皆



さんも数年前に同じ実習を経験した先輩のアドバイスに真剣な表情で聞き入っていました。

実習へ向かう姿勢や看護職として働くことへのモチベーションアップに繋がってくれることを期待します。

2年生には看護のキャリアや実習の心構えを。参考になる話がたくさん。

看護実践教育 令和5年度 特定行為研修



13名の受講生を迎えて開講

特定行為研修を受講した看護師は医師の書く「手順書」という指示書に基づいて迅速な患者対応が行えるため、臨床での必要性や期待が年々高まっています。

本学も平成27年度から特定行為研修を行っており、今年度は急性期コース3名、慢性期・在宅コース10名、選択区分(PICC)2名の受講生を迎えました。



指導医による手技の指導

4月6日に開講式を行い、現在、eラーニング学習や医大の教授や特定Ns等、それぞれの分野の第一線で活躍する指導者から直接学ぶ演習も無事終了しました。今後、実技試験(OSCE)を実施し、合格後10月から臨地実習が始まります。研修生はこれらの過程を経て、修了までに現場で実践できる力を身につけていきます。

看護実践・キャリア支援センターでは、無事修了できるよう、これからも受講生をサポートしてまいります。

【令和6年度受講生募集中】



地域貢献事業 「災害医療のキホンのキ」

6月10日に、DMATや日赤救護班、災害医療ナースとして海外派遣の経験がある附属病院高度救命救急センターの南田哲平さんを講師に、災害医療の研修を実施しました。

災害時には「看護」という枠を超えた判断や対応が必要となります。研修では、災害時に必要となる「用語」の基礎知識から衛星電話等、トランシーバーを使用した情報伝達の方法、収集した情報の整理方法等について学びました。また、教室の半面に横たわる負傷者(受講者が演技)をSTART法を使用して4つの区分に分けるトリアージの演習も行いました。

この研修では机上シミュレーションによって実際に災害が起きた時、看護職としての立場だけでなく、災害本部の設置から人員の配置といった「全体としてどう動くか」を考える視点も併せて学びました。

イレギュラーが重複して起こる災害時に対応するためには、普段から今回のように災害時を想定した準備や訓練が大切であると改めて感じる事ができた研修でした。



災害時は情報収集が大切



トリアージの演習



看護基礎教育 上級臨床指導者育成プログラム

上級臨床指導者育成プログラムは、実習指導者の専門性や教育の能力を高め、実習指導者を指導できる人を看護学科の協力を得て育成する1年間のプログラムで、今年度は4名が受講中です。

6月15日には看護学科の川上あずさ学科長と澤見一枝教授による「指導者とは 指導者を指導することとは」の講義と演習を、8月16日には看護実践・キャリア支援センターの吉川紀子師長から研修の企画運営についての講義を受けました。



時代の変化を踏まえて教育を考える

すでに部署等で看護の教育に携わっている参加者からは、講義を元にそれぞれの経験を踏まえた意見が聞かれました。この1年間の研修で、より広く、より先を見据えた教育の在り方を考え、現場の指導者のリーダー的存在になっていってほしいと思います。



令和5年度チェンマイ大学との学術協定に基づく チェンマイ大学附属病院の看護師受入支援



7月10日～21日にかけて、チェンマイ大学附属病院の看護師長 PUTTACHAT SOMANA さんと NUTTAPHOOM NUCHPONG さんが研修に来られました。新型コロナウイルス感染拡大のため、3年間延期となっていました。附属病院看護部をはじめ、感染管理室や、国保中央病院緩和ケア病棟、訪問看護ステーションみそらの皆様のご協力を得て、日本の看護の現場を訪問、見学しました。研修生のお二人は、血流感染予防の管理、がん看護、緩和ケア等の研修テーマを持って、奈良県の医療看護の実際を見学し、タイと日本の文化の違いはありながらも共通する部分もあること、双方に気づきがあったようです。

文化交流として奈良公園での鹿寄せや、春日大社、大仏殿にも訪れました。研修受け入れにご協力頂いた施設、部署のみなさま、通訳にご協力頂いたスタッフの方々、ありがとうございました。



PUTTACHATさんとNUTTAPHOOMさん



DMATの説明を受ける



クリーンルームの見学



NICUでの感染対策



癒しの水槽に感激（国保中央）



ヘリポート見学



休日はスタッフと共に奈良等の魅力を満喫



地域貢献事業 「どうしたらいいの？フットケア」



胼胝・ウオノメや巻き爪ケアの演習



足への包帯の巻き方演習

8月5日に、附属病院リンパ浮腫外来のリンパ浮腫療法士菊谷光代さんと創傷相談室の皮膚・排泄ケア認定看護師西林直子さんを講師に、フットケアの基本的な知識とスキルを学ぶ研修を実施しました。今回はその中でも「浮腫のある足、傷のある足」に対してどのようなケアが必要か、講義と演習で理解を深めていきました。

研修では、フットケアの基本的知識の説明の後、足の洗浄やフットモデルを使用した爪切り、部位や用途に合わせた包帯を巻く演習を行いました。高齢者の浮腫も詳しく学び、弾性チューブ包帯を巻く演習も行いました。メモリがついた弾性チューブ包帯を使用すると、圧を均等に巻くことができ、使用する包帯の選び方で作業のしやすさが変わることや、患者側としてどの程度の圧がかかるのかを体感できたようです。

様々な包帯の巻き方や足洗い等は臨床ですぐに使えるという意見が多く見られました。



看護師特定行為研修 紹介 【令和6年度受講生募集中】

特定行為研修を受講した看護師は医師が書く「手順書」という指示書に基づいて迅速な患者対応が行えます。

■急性期コース

本コースは、e-ラーニングでの講義、対面での演習やOSCE終了後、10月から附属病院の集中治療部や高度救命救急センター等で、熟練した医師の指導の下、臨地実習を行います。倫理的な視点について学べる独自のカリキュラムも導入しています。

■慢性期・在宅コース

本コースでは、e-ラーニングでの講義、対面での演習やOSCE終了後、10月から県内の11の協力施設で臨地実習を行います。

その他 選択区分もあります。詳しくはこちら →



今後のセンター事業

☆「明日から使える CV ポートの基礎知識と管理方法」 ☆対人関係の心理学 入門編(全5回)

日時: 令和5年10月21日 13:00~17:00

日時: 令和5年9月28日, 10月12・26日,

☆「生き方、逝き方に向き合う～スピリチュアルケアとは～」 11月9日・30日

日時: 令和5年12月2日 13:00~16:00

☆看護学科学生(4年生)対象の
キャリアデザインプログラム

日時: 令和5年11月8日

